

2015年3月期 第2四半期 (2014年4月～2014年9月)

決算説明資料



香料工場
2012年9月竣工



60th Anniversary

 東洋合成工業株式会社

2014年11月14日 (金)

1 . 2015年3月期 第2四半期 決算概要

2015年3月期 第2四半期 決算のポイント

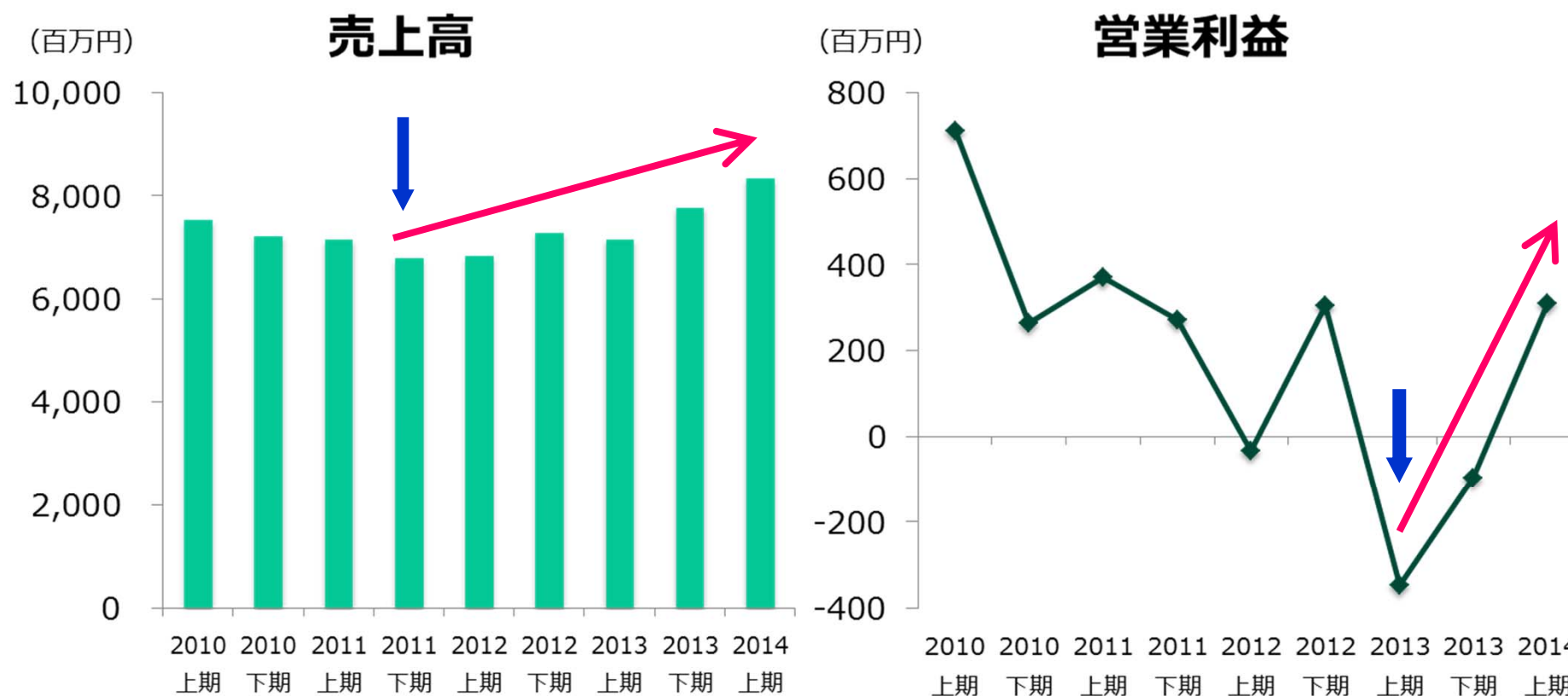
- 売上高は大幅に増加し、上期では過去最高の8,345百万円。
 ー 感光性材料・化成品ともに前年同期比+15%以上伸長し、1,183百万円増加。
- 経常利益は、前期の赤字から黒字転換し、388百万円。
 ー 特殊要因として、営業外収益に淡路工場補助金（兵庫県）約76百万円、為替差益67百万円を計上。

科目 (百万円)	前上期 実績 (A)	当上期実績 (B)	上期計画 ※ (C)	(B) - (A) 前期比増減額	(B) - (C) 対計画比
売上高	7,162	8,345	7,750	+1,183	107.7%
営業利益	△346	309	△140	+655	—
経常利益	△335	388	△140	+723	—
当期純利益	△345	375	△150	+720	—

※2014年5月9日発表

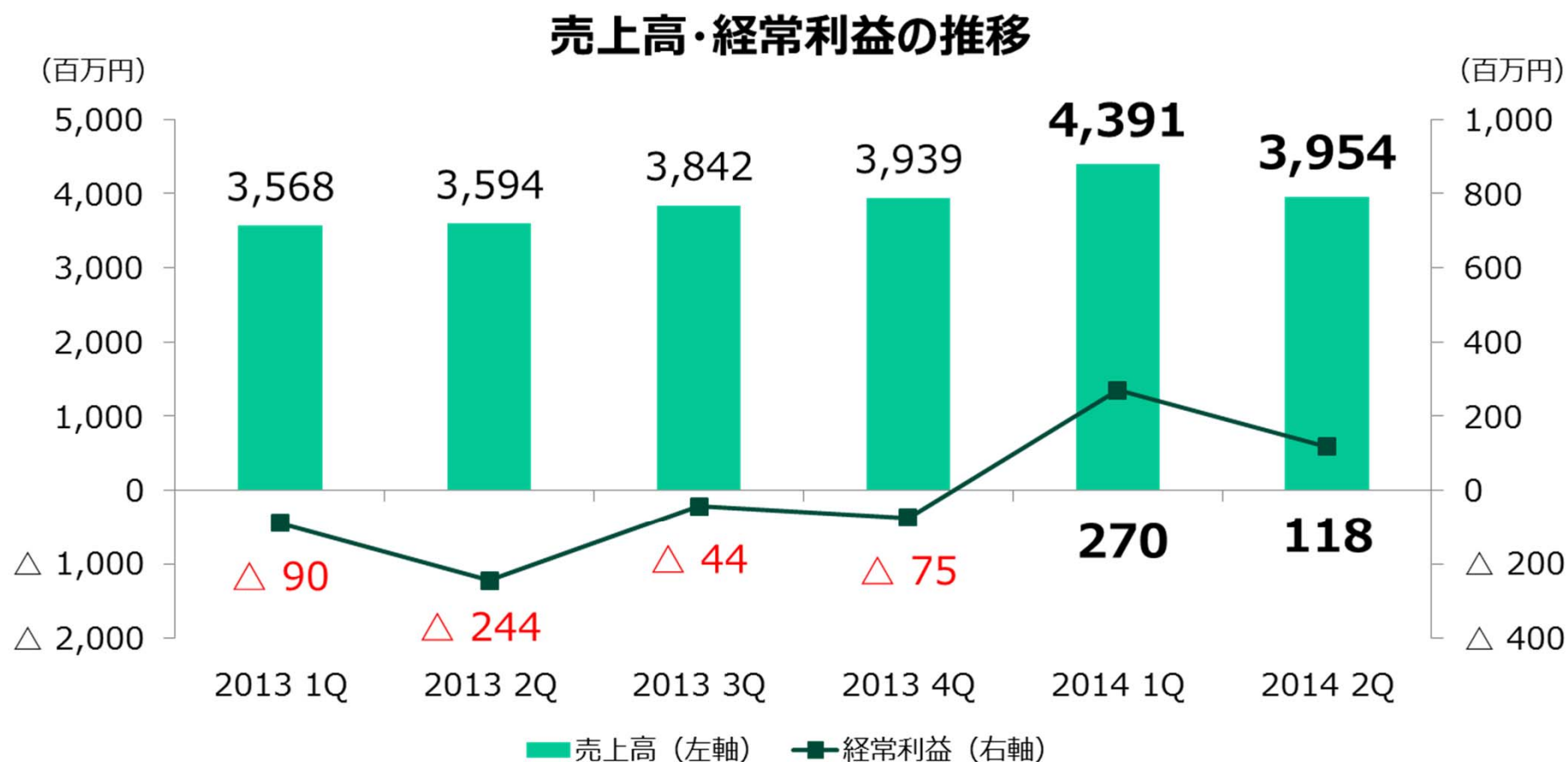
売上高・営業利益トレンド

- 売上高……2011年度下半期をボトムに売上高は拡大。2014年度上半期は過去最高。
- 営業利益……2013年度上半期をボトムに利益を回復し、2014年度上半期は黒字へ転換。



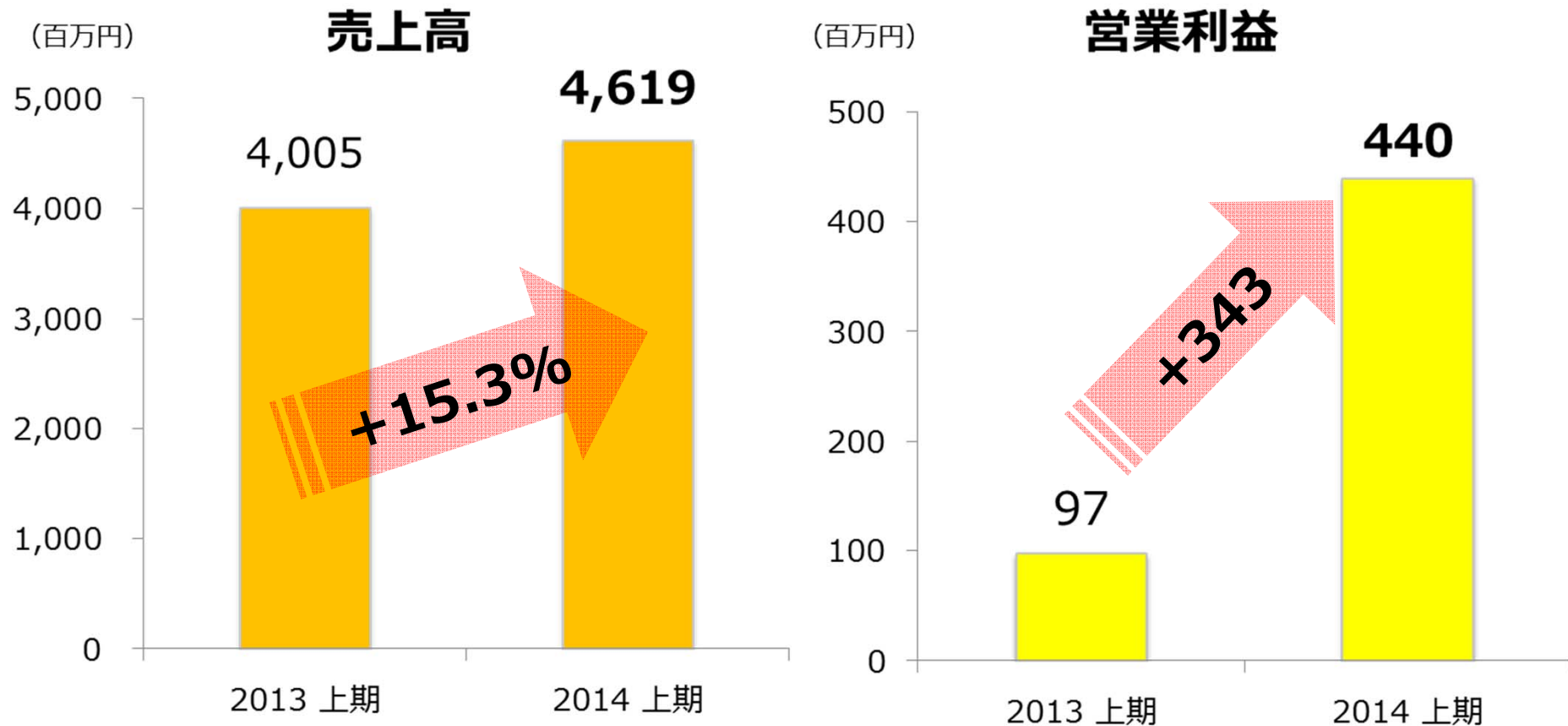
売上高・経常利益推移 (四半期別)

- 売上高…… 売上高は、当第2四半期は減速したものの、堅調に推移。
- 経常利益…… 四半期ベースでの過去4期赤字から、当第1四半期に引き続き、当第2四半期も黒字を確保。



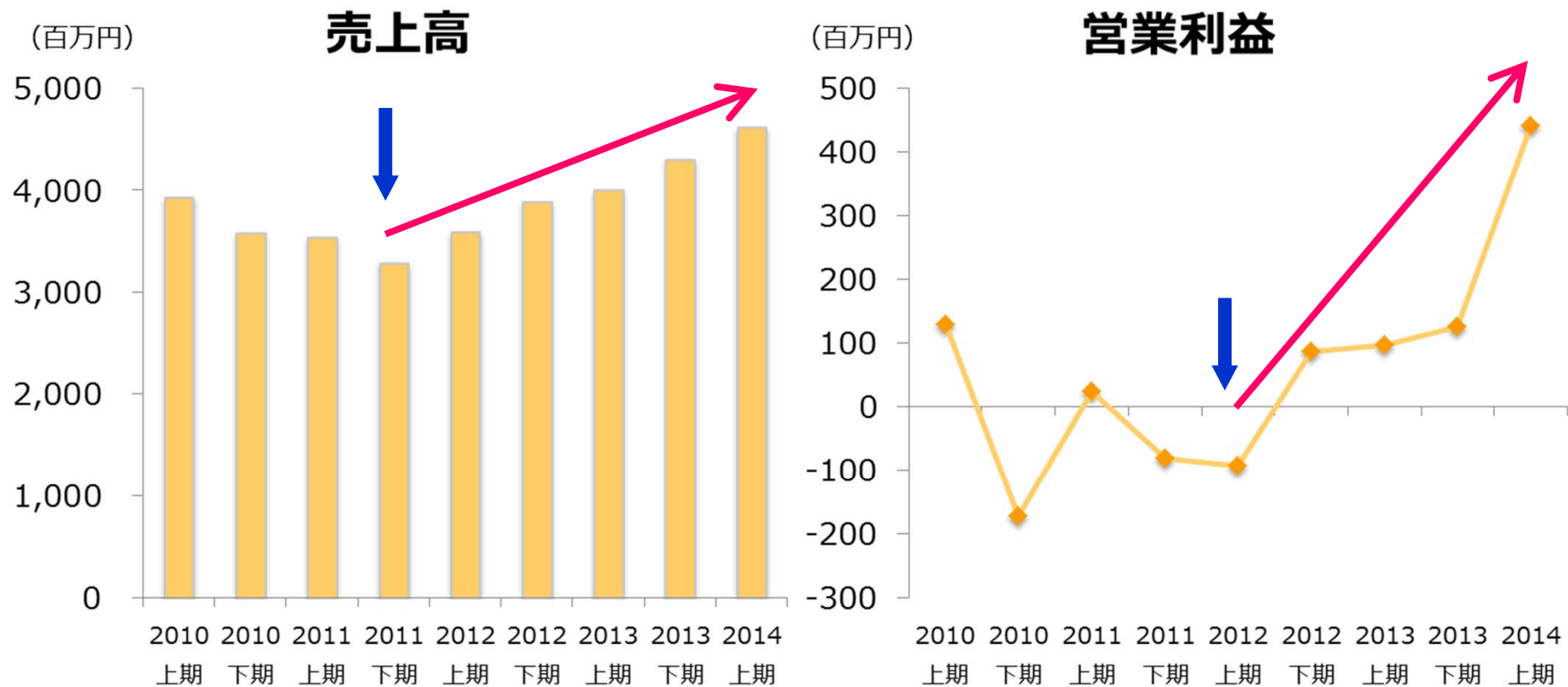
感光性材料事業 売上高・営業利益（前年同期比）

- 売上高は、前年同期比621百万円（+15.3%）増加の4,619百万円。
感光性材料は、液晶向け・半導体向けともに好調。
- 営業利益は、前年同期比+343百万円の440百万円。
感光性材料・エネルギーともに大幅改善。



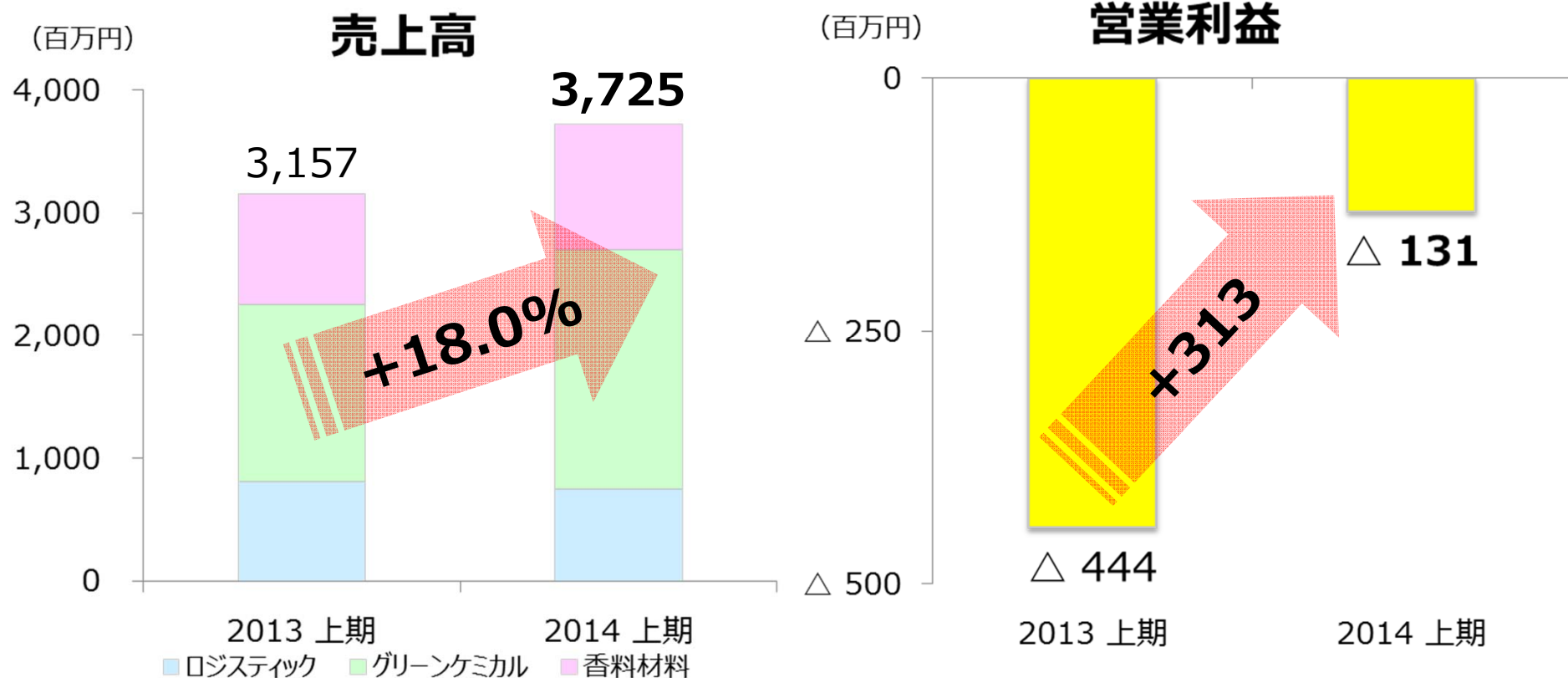
感光性材料事業のトレンド

- 売上高は2011年度下半期をボトムに増収継続。
- 営業利益も2012年度上半期以降増益継続。2014年度上半期は大幅増益。



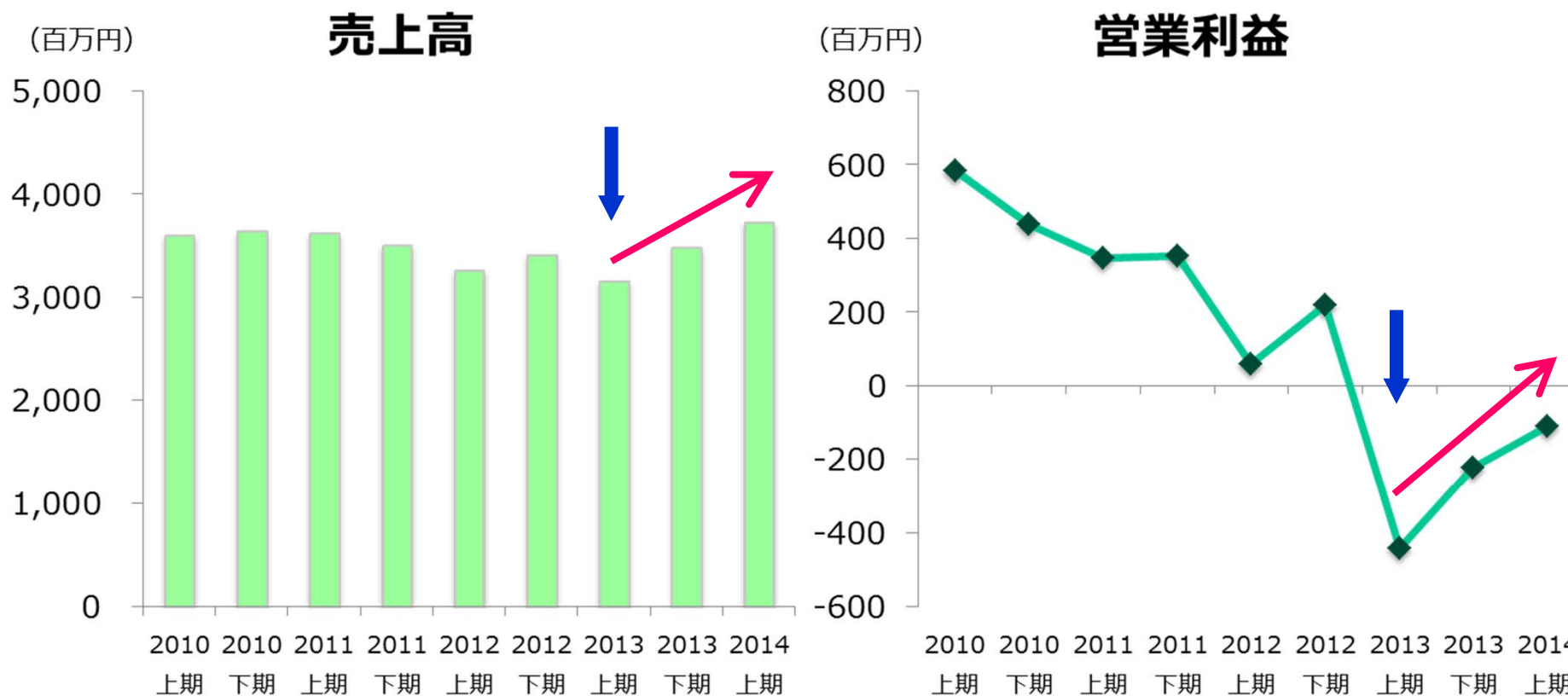
化成品事業 売上高・営業利益（前年同期比）

- 売上高は、前年同期比567百万円（+18.0%）増加の3,725百万円。
 - グリーンケミカル部門が、半導体・液晶向け溶剤を中心に34.8%増加。
 - 香料材料部門も堅調に推移し13.8%増加。
- 営業利益は、前年同期比+313百万円改善し、△131百万円。
 - 香料材料部門は、香料工場の稼働率改善等により収益改善。
 - グリーンケミカル部門は、販売の増加に伴う市川工場の稼働率改善等により改善。



化成品事業のトレンド

- 売上高は、2013年度上半期をボトムに売上高が拡大。
- 営業利益は、香料工場（2012年度下期）、淡路工場（2013年度上期）の竣工に伴う固定費増により急速に収益が悪化したものの、足元は回復傾向。



損益計算書 (要約)

- 売上総利益…………… 売上増加・稼働率改善により、499百万円の増加。利益率は前年比4.1%の改善。
- 販売管理費…………… 経費削減努力により△158百万円。
- 営業外収益/費用…… 淡路工場補助金（兵庫県）76百万円、為替差益67百万円。

科目 (百万円)	2014年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	7,162	8,345	+1,183	+16.5%
売上原価	6,212	6,896	+684	+11.0%
売上総利益	950 (13.26%)	1,449 (17.36%)	+499	+52.5% (+4.1pt)
販売管理費	1,297	1,139	△158	△12.2%
営業利益	△346	309	+655	-
営業外収益	132	210	+78	+59.1%
営業外費用	120	130	+10	+8.3%
経常利益	△335	388	+723	-
特別利益	7	-	△7	-
特別損失	6	8	+2	+33.3
税引前当期純利益	△334	379	+713	-
法人税等・少数株主持分利益	11	3	△8	△72.7%
当期純利益	△345	375	+720	-

貸借対照表 (要約)

- 流動資産……売上増加に伴い、売掛金・棚卸資産が増加し+641百万円の増加しているものの、運転資金の回転期間は前期同水準を維持。
- 固定資産……投資を抑制し、減価償却費（870百万円）の結果、△716百万円。
- 負債……設備支払手形・未払金減少と借入金減少（△227百万円）により、△541百万円。

科目 (百万円)	2014年 3月期末	2015年 3月期 第2四半期	増減	科目 (百万円)	2014年 3月期末	2015年 3月期 第2四半期	増減
流動資産	9,626	10,267	+641	負債	22,992	22,451	△541
現金預金	1,450	1,526	+76	買掛債務	1,861	2,118	+257
売上債権	2,461	2,642	+181	有利子負債	17,841	17,614	△227
棚卸資産	5,469	5,940	+471	その他	3,288	2,719	△569
その他	243	157	△86				
固定資産	19,233	18,517	△716	純資産	5,867	6,333	+466
有形固定資産	18,352	17,611	△741	株主資本	5,858	6,303	+445
無形固定資産	332	342	+10	評価・換算差額等	8	29	+21
投資・その他	547	564	+17	少数株主持分	-	-	-
資産合計	28,859	28,785	△74	負債・純資産合計	28,859	28,785	△74
				自己資本比率 (%)	20.3	22.0	+1.7
				D/Eレシオ (倍)	3.04	2.78	-2.6

キャッシュ・フロー計算書 (要約)

- 営業キャッシュ・フロー……………黒字化の影響により、1,081百万円増加し、988百万円。
- 投資キャッシュ・フロー……………設備投資を抑制し、△678百万円。
- 財務キャッシュ・フロー……………借入金等の返済により、△250百万円。

科目 (百万円)	2014年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるCF… (A)	△93	988	+1,081
税金等調整前純利益	△334	379	+713
減価償却費	914	870	△44
売掛債権の増減額	△342	△181	+161
たな卸資産の増減額	△138	△470	△332
仕入債務の増減額	△269	257	+526
その他	76	131	+55
投資活動によるCF… (B)	△1,510	△678	+832
フリー・キャッシュフロー (A+B)	△1,603	310	+1,913
財務活動によるCF	1,309	△250	△1,559
現金及び現金同等物の増減	△287	75	362
現金及び現金同等物の期末残高	881	1,126	245

2. 通期の見通しについて

2015年3月期 業績予想 (2014年11月7日修正)

- 売上高は、通期162億円 (期初予想比+6.2億円)
- 経常利益は通期2.4億円 (期初予想比+5.1億円)

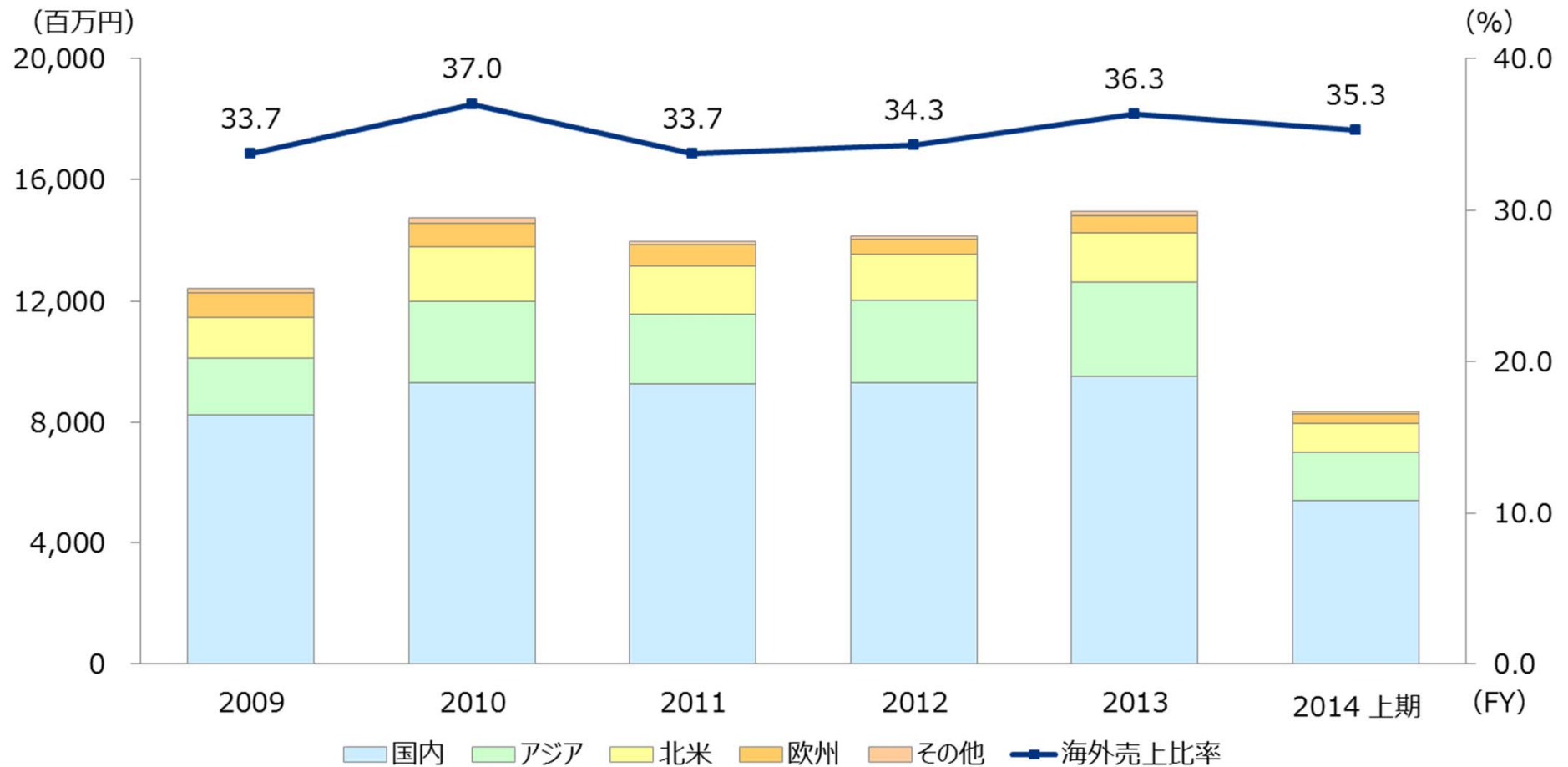
科目 (百万円)	2015年3月期 上期実績	2015年3月期 下期業績予想	2015年3月期 通期業績予想	2014年3月期 実績	前期比 増減額
売上高	8,345	7,855	16,200	14,944	+1,256
営業利益	309	△49	260	△444	+704
経常利益	388	△148	240	△455	+695
当期純利益	375	△275	100	△673	+773

想定為替レート：USD = 105円

3. 今後の展望について

海外売上高/売上比率の推移

- 海外売上比率は横ばい。国内売上に比例して数量は増加。アジア向け堅調。

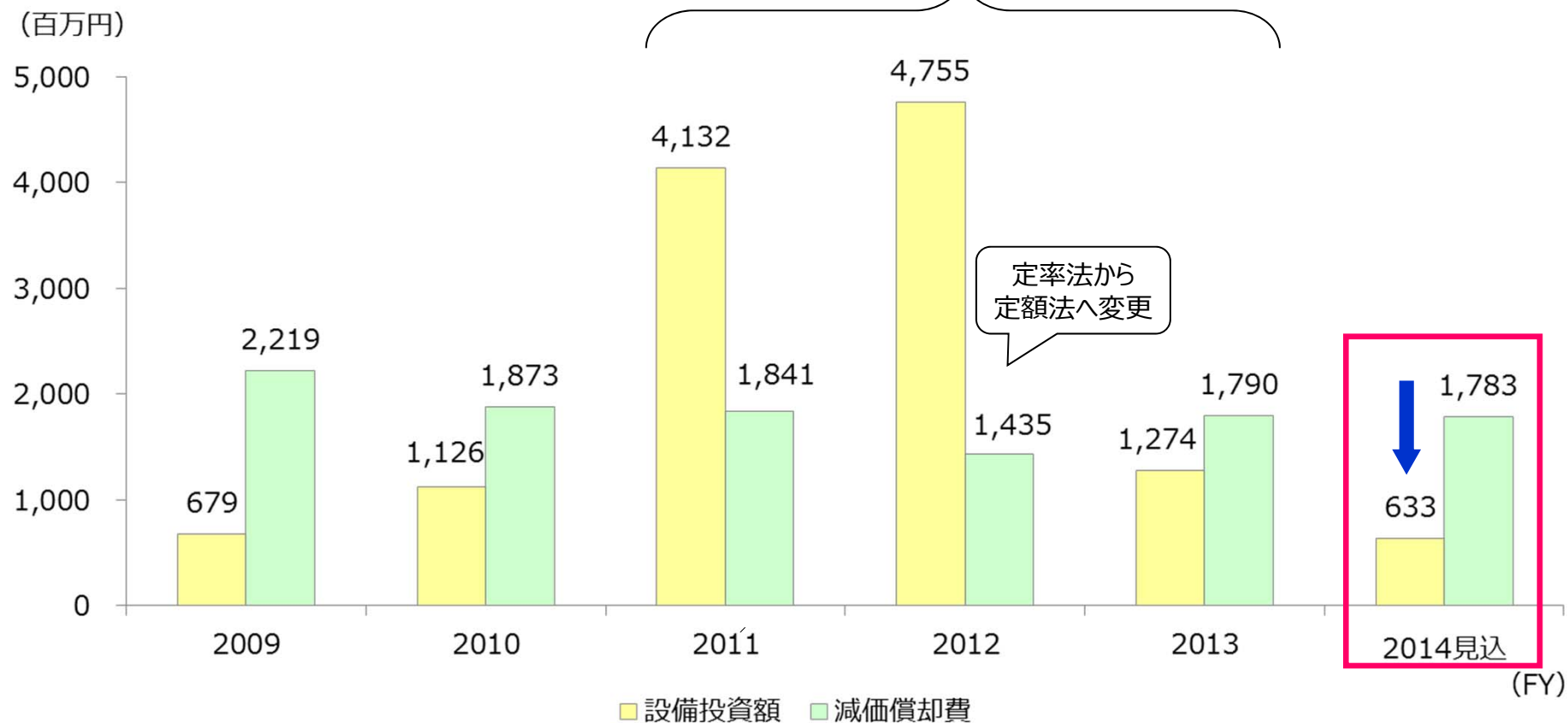


設備投資と減価償却費の推移および計画

- 大型投資は2014.3月期で完了
- 今期の設備投資は償却費の範囲内で計画
(投資6億円 < 償却費18億円)
- 減価償却費は前期に比べ微減の見込み (変更なし)

(過去3期の主な投資)

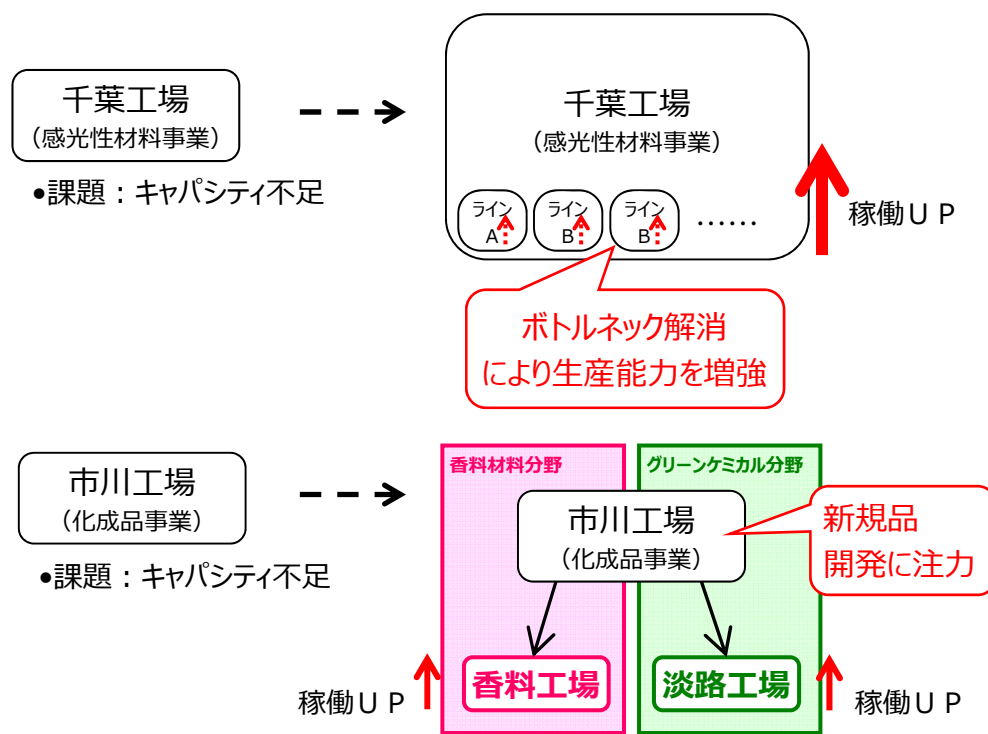
• 香料工場建設	33億円
• 感光材設備増設	13億円
• 淡路工場建設	21億円
合計	67億円



ROAの推移

- 2012年、2013年の2工場建設により、大型設備投資は一服。
- 利益の創出に注力し、投資回収を進める。
- 販売面、生産面、研究開発面で取り組みをスピードアップし、ROAを向上。

生産能力の増強



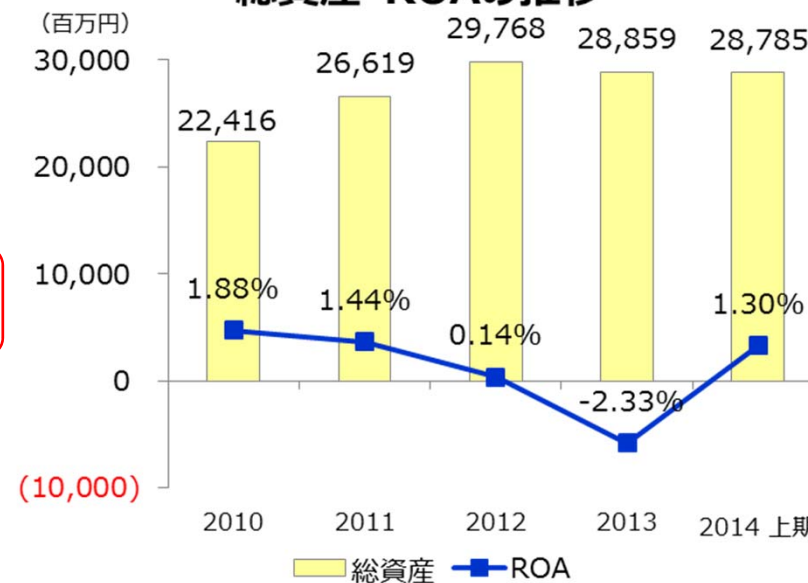
過去

現在

ROA改善策

- [販売] 適正価格化の推進
- [生産] 設備ボトルネックの解消
- [R & D] 新規案件の開発スピード向上

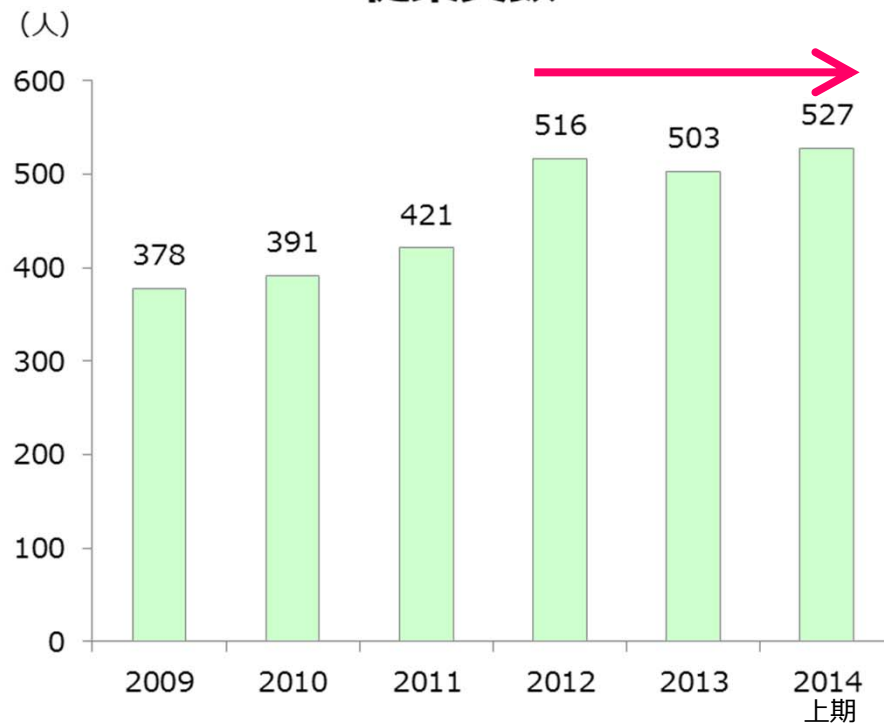
総資産・ROAの推移



人件費/研究開発費

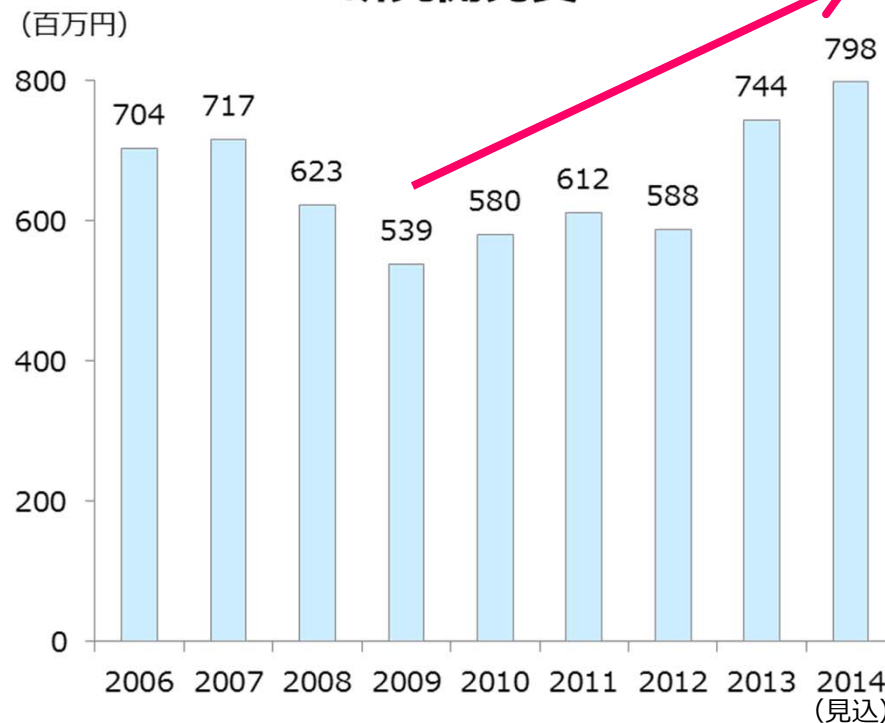
- 事業拡大に伴う技術系および生産系の人員整備は完了
- 従業員数は現状の規模を維持しつつ、研究開発シフトを加速
- 競争力強化のため研究開発は加速

従業員数



従業員数は現状と同水準を維持

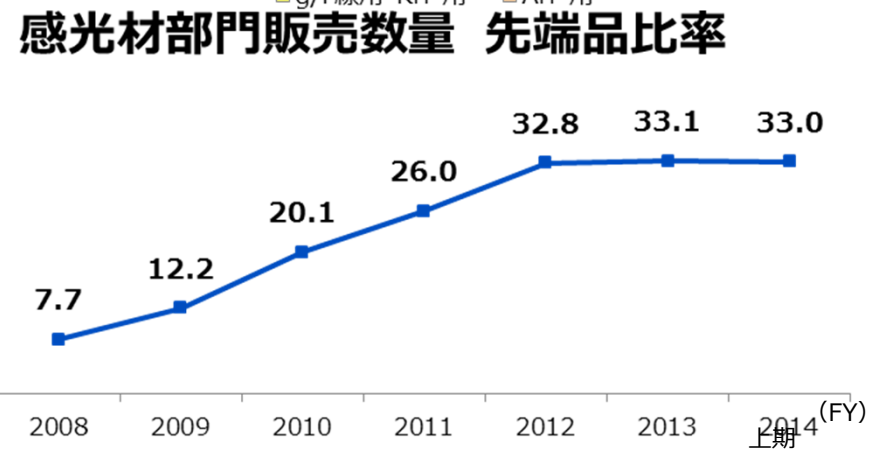
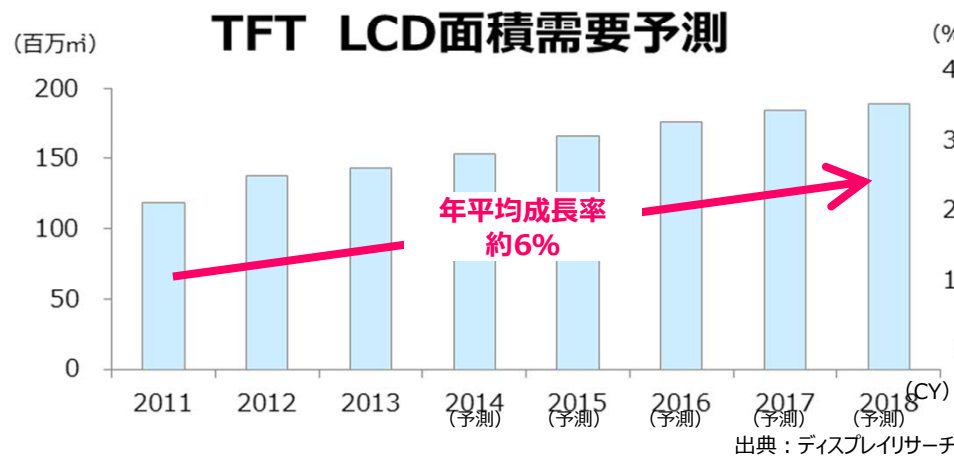
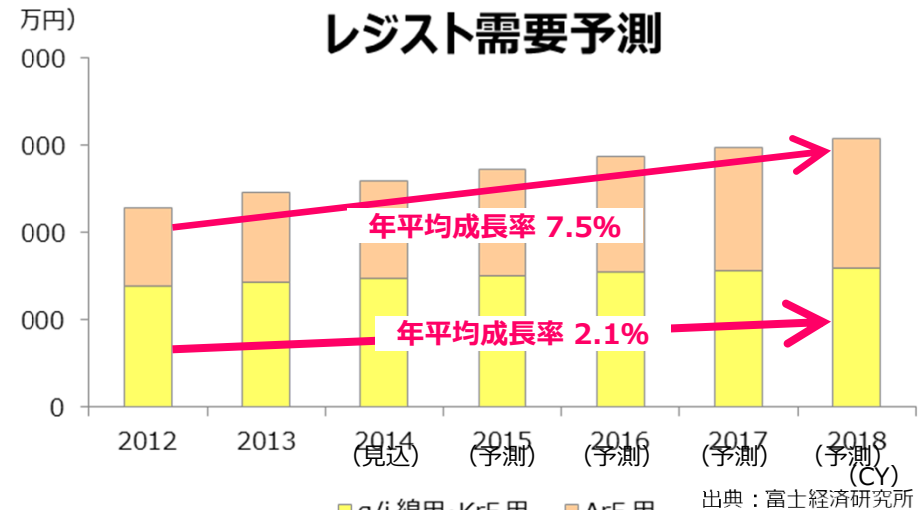
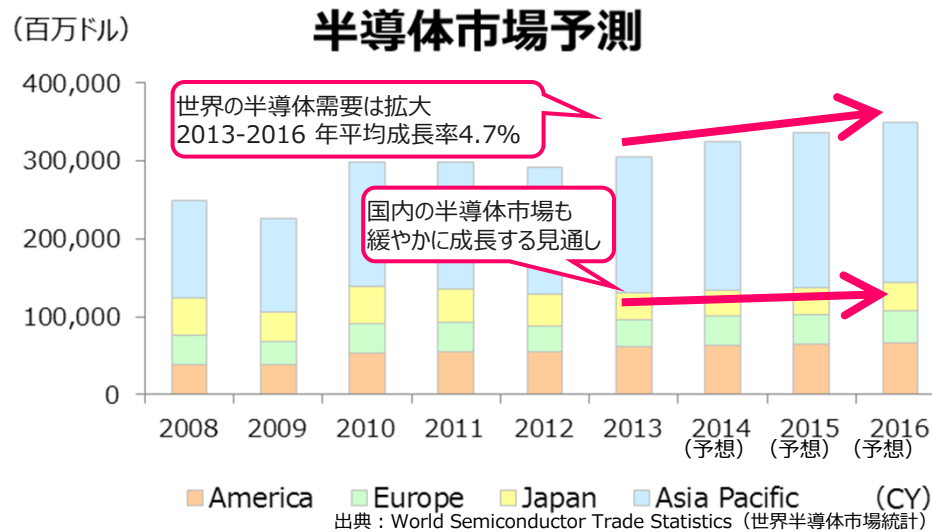
研究開発費



研究開発をより一層加速させる方針

感光性材料事業

- 先端半導体レジスト需要は、ArF世代の延長に伴い拡大。先端品の開発需要も拡大
- 台湾・韓国・中国におけるFPD生産拡大により、LCD向けも成長が続く
- FPD向け感光材はタッチパネル需要の拡大に伴い高純度感光材のニーズが顕著化



先端品比率は横ばいだが、アプリケーションの伸展に伴い、既存品・先端品の売上・量が共に拡大していることによるもの。

感光性材料事業

- 半導体の微細加工技術と3次元化が進化し、20nmレベルまで量産化
 - 現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階（当社注力領域 DPからMPへ）
- これら状況により、開発需要が旺盛

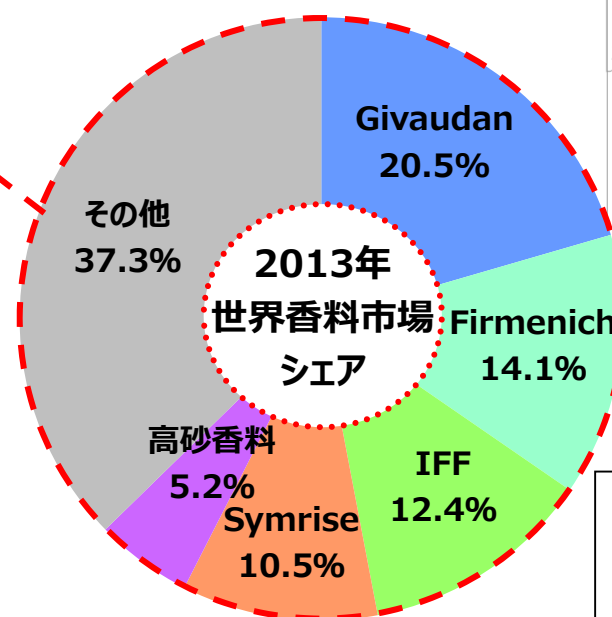
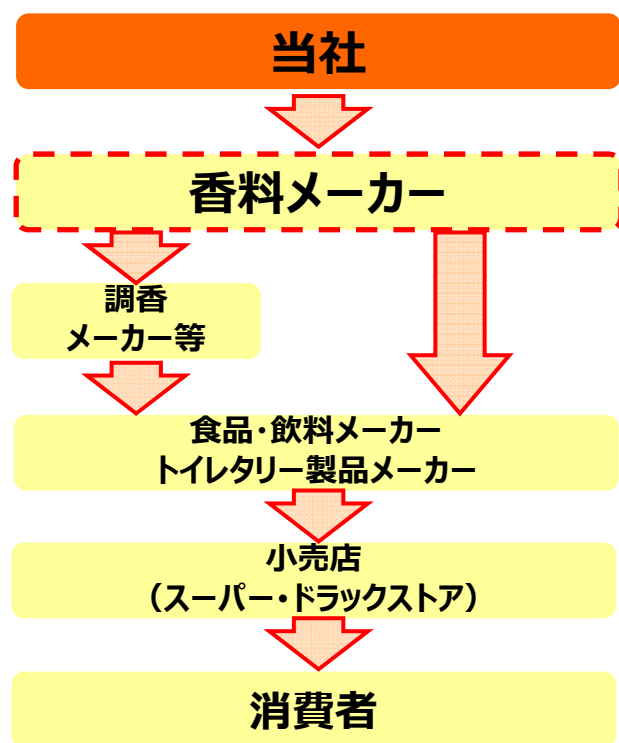
	LCDパネル用		半導体用						
	g + h + i 線	i線	g線	i線	KrF	ArF	EUV		
							液浸	ダブルパターニング	EUV
線幅	～2,000nm	～1,000nm	～700nm	～200nm	～110nm	～65nm	～45nm	～22nm	～16nm
用途	テレビ用、 一般用	先端中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、LED		DRAM / NAND FLASH メモリ				次世代ロジックLSI
			先端ロジックLSI						
市場	新興国の 需要増	スマートフォン タブレットによる 拡大	緩やかに縮小	拡大	やや拡大	横ばい	量産化 急拡大		プロトタイプ露光機 販売中 材料開発中

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

化成品事業 香料材料部門

- 香料の市場規模は新興国の経済成長が牽引し、平均4%台で拡大。
- 世界香料市場は、上位5社で約60%強を占める寡占市場。
- 当社は、世界香料市場の上位会社を主要販売先とし、世界的な需要増加を取込み成長中。
- 直近では円安傾向の定着により、数量を確保し、回復傾向。

サプライチェーンと当社の位置付け



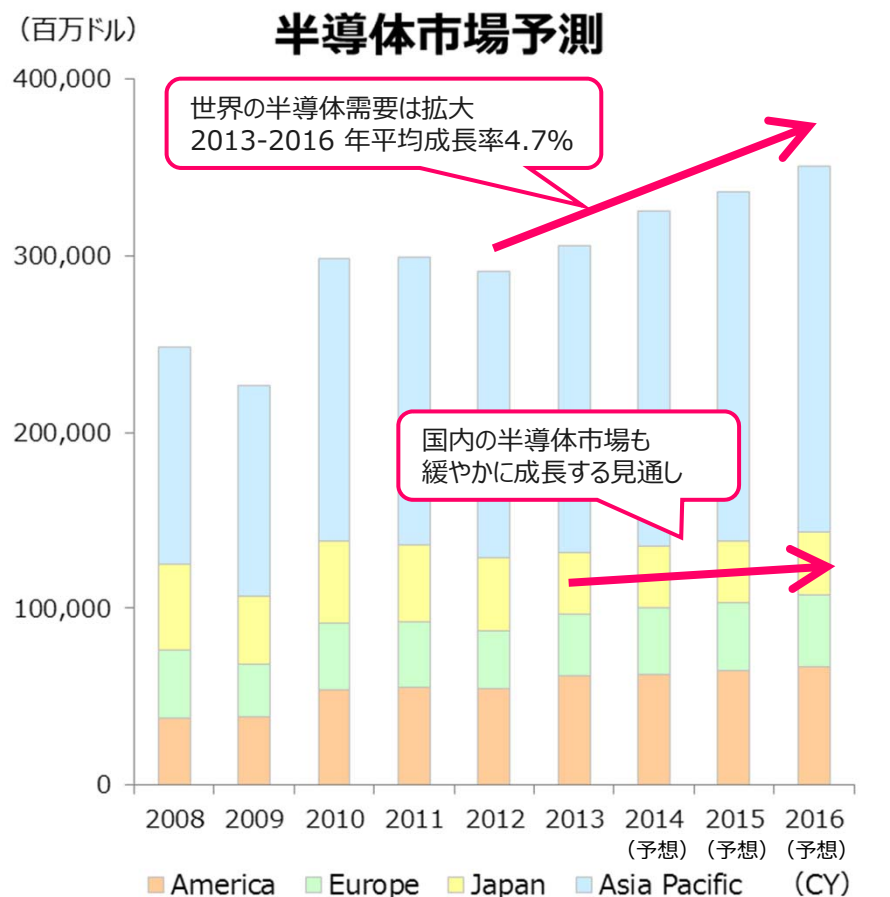
(出典) Leffingwell & Associates / Flavor & Fragrance Industry Leaders



特に発展途上国市場（南アメリカ・中国・アジア・インド地域）は、経済成長に伴い2桁成長へと市場が急拡大しており、トイレタリー製品に使用される香料需要（フレグランス）も増加傾向。

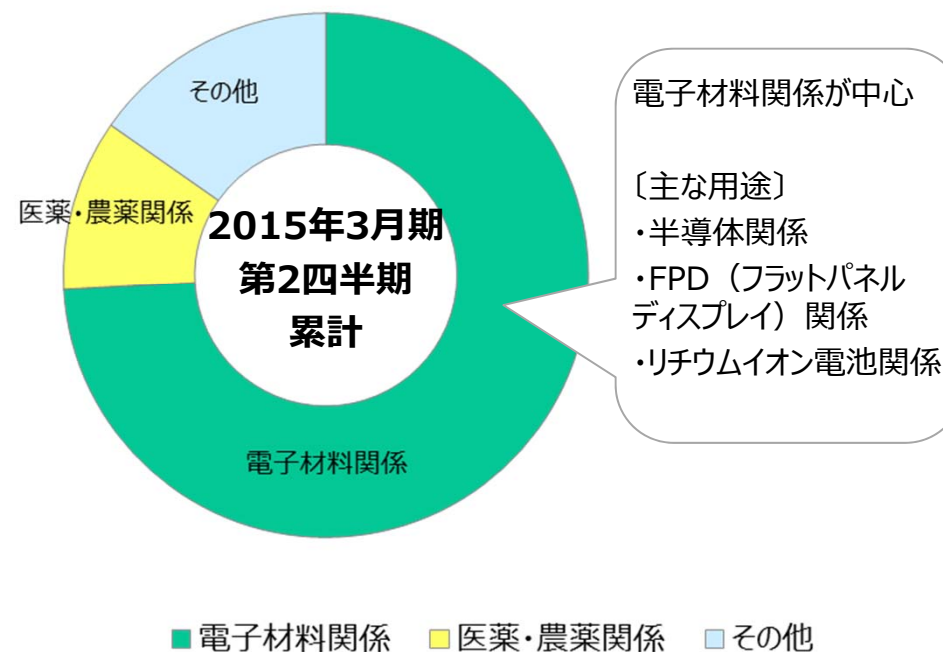
化成品事業 グリーンケミカル部門

- 創業以来の蒸留・精製技術を活かし、高純化が進む電子材料分野に注力。
- 淡路工場は、今期本格的な生産を開始。
- 従来の国内向けだけでなく、海外市場の需要取り込みにも注力。



出典：World Semiconductor Trade Statistics (世界半導体市場統計)

用途別売上比率



化成品事業 ロジスティック部門

高い参入障壁と好立地条件

参入障壁

- ・東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難

立地優位性

- ・東京湾岸に立地し、高速出入口にも近接
- ・好立地と抜群の交通アクセス
- ・外環道の開通※により優位性がさらに向上

※三郷南IC-高谷JCT間 2017年度開通予定



サービスの差別化

充実した設備

- ・多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供

高付加価値サービス

- ・ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み



東京湾内の需給タイト化

大手ターミナルの閉鎖

- ・東京湾内で約11.4万kl（ケミカル以外を含む）を誇るターミナルが閉鎖を発表
- ・東南アジア・中国における石油化学プラント建設増加により輸入品増加、タンク需要増加

感光性材料事業 バイオ関連 Cell-able®

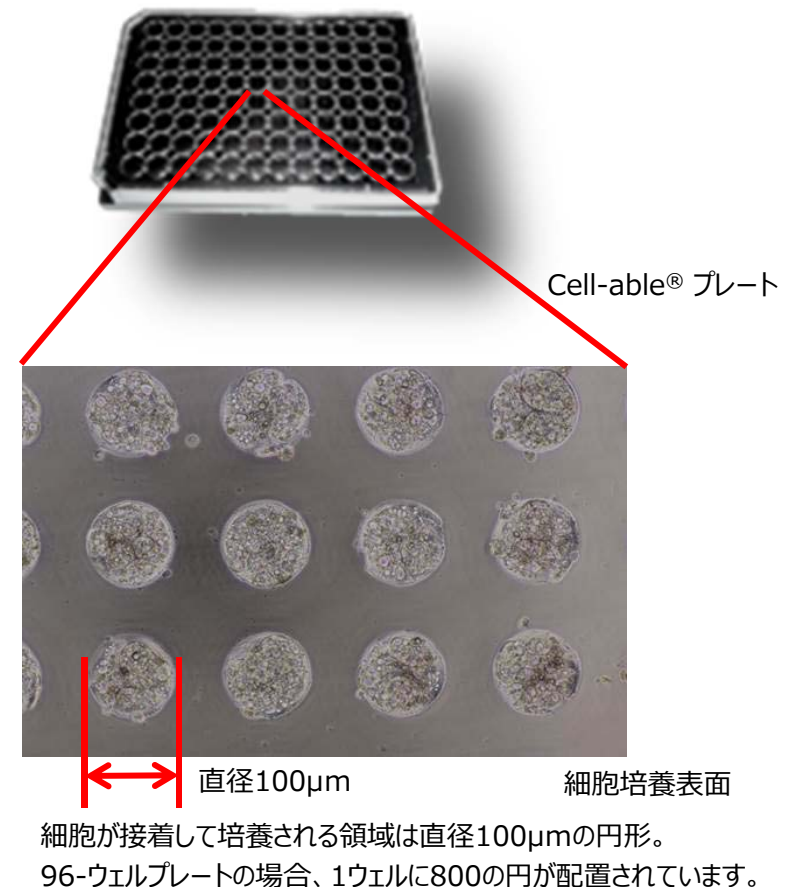
- Cell-able® は、水溶性感光材技術を応用し製品化。2003年販売開始。
- 2014年10月、世界最大の検査受託機関であるEurofins Panlabs の癌アッセイサービスで採用。
- 2014年10月発売開始の Ready to use 3D ヒト肝細胞培養プレートは、厚生労働省へ認可申請中のため、当面は研究用途に限定し販売。
- 研究開発段階のため、全社への売上寄与は限定的。

Cell-able® 概要

- Cell-able®は、がん細胞株、初代肝細胞、患者由来がん細胞等のさまざまな細胞※の3次元構造を容易に形成した、細胞培養用プレート。
- Cell-able®のウェル底面には、水溶性感光剤のポリマーによる微細なパターンニングが施されており、これによりプレートの底面に均一のサイズのスフェロイド（細胞凝集塊）を形成することが可能。

※さまざまな細胞：iPS細胞や幹細胞などが該当します。

詳細は決算説明後、別途ご説明いたします。



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社



60th Anniversary

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。